

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

何事も「楽しむ」コツ

始業式で「元氣な挨拶を自分からする」ことの大切さの話をしました。では、この言葉の中で最も大事なことは何でしょうか。「元氣な」こと？「挨拶する」こと？それも大事には違いありませんが、最も伝えたかったことは「自分からする」ことです。

面白くない、楽しくないという不平不満を周りのせいにして、それが劇的に変化することはほぼありません。ほとんどの場合、楽しくない集団のなかでくすぶりながら過ごすことになりました。振り返っても、良い思い出は少なく思い出すこともないでしょう。しかし、たまたま楽しく過ごせる集団に所属した時には、楽しいあまりあつという間に時が過ぎ、楽しい思い出ばかりで、あの頃に戻りたいと思うでしょう。

よく思い出してみると明るい誰かや、優しい誰かがいて居心地がよかったのではないのでしょうか。きつい時に盛り上げて引張ってくれるリーダーがいて、みんなを支えたのではないのでしょうか。そうして明るく優しい前向きな集団が出来上がっていたのだと思います。自分のやれることを自分からしている集団だからこそ優しく居心地が良い仲間になったのです。

不平不満を言っても状況は何も変わらないで、時間を浪費するだけだと思います。自分から動くと思える景色は変わりますし、賛同する人もできてきます。また、もしそうならなくても「自分」は何かをしようとしたという自信が生まれ、その後の成長に繋がります。

楽しく過ごすには「自分から」何かをするしか方法は無いと私は思います。人は思った通りには動きませんし、簡単には変わらないものです。変わるなら「自分から」です。ほんのちよつとのことでも自分から動くことが人生を

「楽しむ」コツであり唯一の方法だと思えます。何もせずじつと次の幸運を待ってただ時を過ごすより、自分が楽しむために自分のできることを考え、動くことで、居心地の良いクラス、学校、地域にして共に人生を楽しく過ごしていきたいでしょう。

素晴らしい経験と成長

各学年とも二学期最初の大きな取り組みである修学旅行、職場体験、宿泊体験が行われました。三年生の修学旅行についていきませんが、日を追うごとに時間を意識し、一人も残さず声を掛け合つて行動し、集団として大きく成長していく姿を見ることができました。自分の役割を精一杯果たし、みんなが精一杯楽しくしようとする前向きで豊かな時間を笑顔で過ごせました。

職場体験もそれぞれの場所で見聞を取り組み、各事業所の方々からお褒めの言葉をいただきました。また宿泊体験も思いっきり体を動かし仲間と協力することを通して学級のつながりを深めたようです。木曜日の朝は清々しい表情で、いつもより大きな声で明るく挨拶をする生徒たちでした。この経験で得たことをこれからの学校生活に是非活かして、もっともっと楽しく充実した学校生活にできるよう「自分から」動いてほしいと心から願っています。文化学習発表会が本当に楽しみます。

マイトシップ

オーストラリアでは「グッデイ、マイト！」とあいさつを交わします。グッデイ、マイトがなまったもので、初対面でもマイト（友人）です。旅をする中で様々な人に出会いましたが広い広いオーストラリアに根づく考え方がこの「マイトシップ」でした。

まだ歴史の浅いこの国には、かつて、生活用具一式を背負ってたった一人で荒野を進んで仕事を求める「スワッグマン」がいました。国のほとんどが乾燥地帯や砂漠で、ひとり旅するスワッグマンどうしが出会うと、助け合わなければ生きてはいけません。助けられなくても再び同じ人と出会うことはまずない。だから「自分が助けられたなら、その恩を忘れずほかの人間に返す」という考え「マイトシップ」が生まれたのです。

旅の途中で幾度となくオーストラリアに脈々と引き継がれているこの考え方、行動にふれました。感謝の意を伝えると、「俺も昔、助けてもらったから当然だ。お前は誰かが困っているとき力になってやれ」と。厳しい自然の前には人間は無力、だから助け合う。もし見捨てたらその人は死んでしまいかもしれない。だから手を差し伸べる。

校長室より

シドニーやパースなどの街では感じるものが少なかったのですが、アウトバックといわれる荒野では、そこに生きる人間すべてが「マイトシップ」を持ちあわせていました。受けた恩を忘れず誰かに返す：その優しさは巡り巡って自分にも戻ってくるかもしれないし、一人では生きていけないものですね。頼り頼られることが当然の、優しさと思いが満ち溢れた世界を目指していきたいですね。

陸上競技をしていた私は三七歳まで試合に出場していました。伊万里に来て、職員の山崎さんから声をかけてもらい、五四歳にして、また短距離の試合に出場することになりました。まずは体作りから始めましたが、ちよつと無理したら右足のふくらはぎを痛めてしまいました。食事に注意し、自室でも腹筋を鍛え、回復するにつれて徐々に練習を再開しています。

食べたいものを我慢し、負荷をかけて体を絞っていくのは確かに大変で、辛くもありますが久しぶりに試合という目標に向かって進んでいくのはやはり楽しく、味わうことができる幸せをしみじみと感じています。声をかけてくれた山崎さんに感謝です。この結果は来月早々にお知らせしますが、怪我無く完走が今のところは目標です。